

研究の動向

(1) 47年度試験研究の動向

47年度より、当支場の参加したプロジェクト研究として、「材線虫によるマツ類の枯損防止」「農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する総合研究」の二課題があらたに発足した。

これらは、それぞれ本支場を通じたプロジェクト・チームによる共同研究体制で実施されたのであるが、当支場の分担研究として、前者は、材線虫の分布状況、寄生性などの生態調査を、主として和歌山県下の既設試験地その他で実施し、後者については、とくに、ススハガレ病や昆虫等の指標性の有無、低濃度、長時間の汚染の指標性の有無を知るために広島県下その他にフィールドを設けて試験した。

指定研究としては、「マツ類の穿孔性害虫防除」「スギの主要病害」「合理的短期育成林業技術の確立」の3課目が、47年度もひきつづき部内の共同研究としてそれぞれ実施された。

国有林特別会計の技術開発項目として、次のものを実施した。

一つは、「樹下植栽による更新試験」(林内更新法)であり、この目的とするところは、伐採前に林内で人工更新処置を実施したばあいの、林地の保全と能率性の検討を究明するもので、一つは「風致を考慮した施業法」である。これは、国有林のもつ公益機能のうち自然風致資源の培養のための森林施業技術の開発を主眼としたものである。いずれも、現今の国有林野経営にとって、その技術開発を要望されているもので、当支場の造林研究室を中心として、管内国有林を対象して試験をおこなった。

つぎに経常研究であるが、47年度からの新規課題として「非皆伐施業に関する研究」「非火山性土壌の遊離酸化物の性状」である。このうち「非皆伐施業」の研究は、当管内の如く人口稠密で林地保全・保健・休養などの森林の公益機能が一段と要請される地域においては、従来の一斉皆伐作業の再検討をせまられ、択伐林、多段林、先行造林法などを総括する非皆伐施業体系の確立をいそがれているものである。「非火山性土壌」に関する研究は、土壌肥料総括検討会議(技術会議主催)で重要課題としてとりあげられたもので、農技研、林試などが分担して研究しているもので、当场土じよう研究室が中心となりその一端を分担している課題である。

その他、従前より、ひきつづいて継続研究をおこなっているものの経常研究の主要課題をあげると、「枝打技術の確立」「アカマツ林の施業改善」「竹に関する研究」「林地肥培」「森林土壌の水環境」「林地における雨水貯溜」「磨丸太の生産流通構造調査」「林地・苗畑病害」「関西地方における森林昆虫の基礎的研究」などであって、当支場管内の地域林業の発展に寄与する課題を積極的にとりあげて問題究明にあたった。

(2) 昭和47年度研究目標および研究項目表

研究目標	研 究 課 題			研 究 項 目	担当研究室
	大	中	小		
林業生産	育林技術の高度化	適地判定技術の確立	森林生物の分類生態および分布	— 病虫害害の鑑定診断と防除対策指導	樹病, 昆虫
			森林土壌の生成, 分類, 調査法, 分布, 特性, 地質	— 森林土壌のリン酸の形態	土じょう
				— 森林土壌の水環境	〃
		— 〃 の腐植		〃	
		— 非火山性土壌の遊離酸化物の性状		〃	
		— 亜熱帯森林土壌(台湾)	〃		
		種苗生産技術の高度化	苗畑採種林の被害防除	— 苗畑病害	樹病
				— 連作障害要因の相互関連性の究明(特別研究)	樹病
		更新および保育技術の確立	林地肥培ならびに改良	— 林地肥培(技術開発)	土じょう
				— 天然生林の更新および保育技術	造林
	特殊環境地帯の更新および保育技術		— 寡雨地帯の育林技術	岡山	
			人工造林の更新および保育技術	— アカマツ林の施業改善	造林
				— 混交林の経営	育林部長, 造林
	— 枝打技術の確立			造林	
	— 樹下植栽による更新試験(技術開発)			育林部長, 造林	
	— 非皆伐施業	造林			
	— 風致を考慮した森林施業法(技術開発)	育林部長, 造林			
	— 人工林施業法の解明	経営			
	森林の被害防除技術の高度化	森林の病虫害鳥獣害防除技術の高度化	— 林地病害	樹病	
			— スギ主要病害の耐病性調査(指定研究)	〃	
— マツ類穿孔性害虫防除(指定研究)			昆虫		
— 関西地方における森林昆虫の基礎的研究		〃			
病虫害鳥獣害の薬剤防除	— サクラのてんぐす病	樹病			
	— 材線虫によるマツ類の枯損(プロゼクト研究)	樹病, 昆虫			
育林生産技術の体系化	保育形式の確立	— 合理的短期育成林業技術の確立(指定研究)	造林		
		— 森林の構造と成長	経営		
森林資源の把握	森林の構造と成長	— 森林の構造と成長の関係解析(技術開発)	経営		

